令和８年度　第３回湯沢学園拡大学校運営協議会　会議録

令和８年８月 21 日（金）14：00～16：00

会場　湯沢学園　家庭科室他

（１）開会の挨拶（南雲会長）

天気も良く、午前中は一部地域で雨や風が強かったようだ。お盆時期となり、大和神楽の催しがあった。小学生時代に習っていた子どもたちが成人し、後を引き継いでくれる人が増えてきた。指導者の高齢化による練習不足も見込まれる中、夏休み・冬休み中、大人になって帰ってきてくれる人が増えて欲しいと感じた。本日は、そのような関係の内容も含めて、学区・地域から集まっていただいたこの機会を、気軽に話せる有意義な会になることを期待している。

（２）熟議　みんなでつくる湯沢学園子どもの学び

全体会（中澤副会長）

夏休み中にも関わらず、生徒をはじめ、たくさんの方に集まって頂き、感謝したい。

コミュニティースクールがなぜ必要かを改めてお話したい。背景として時代の変化に伴い、学校と地域のあり方（教育環境を取り巻く状況、地方創生の動き、社会の動向、教育改革の動き）が変化している。これから求められるものとして、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力の育成、学校だけでは得られない知識や経験、能力、地域住民が自ら地域を作っていくという主体的な意識への転換が挙げられている。学校と地域はパートナーであるという考え方で、学校任せにせず、学校運営に地域の視点を取り入れることが必要不可欠である。

地域学校協働活動では、地域の教育力を学校に結びつける活動を行っている。湯沢町内の各企業や団体から協力いただき、クラブの講師や職場体験の訪問先へとつなぐ役割を担っている。ふれあい福祉健康フェスティバルでは、子どもたちが地域の大人と盛り上げるだけでなく、学校外でも主体性を育む場となるよう取り組んでいるところである。

団体や企業が集まり、学校と両輪で子どもの学びや体験をより価値あるものとし、未来の担い手として地域に愛される子どもたちを増やしたいと思っている。本日は学校、地域が一体的推進のためにそれぞれのスタンスと効果を踏まえ各活動に参加するために、多様な意見やアイデアを出していただきたい。

分科会

分科会では、以下の３つに分かれ、現状と課題などを複数グループで話し合い、終わりには意見交換をした。

・分科会Ａ：子どもたちが湯沢町をもっと好きになるための教育活動の工夫
・分科会Ｂ：子どもたちが湯沢町の未来について考える教育活動の工夫
　　～「湯沢町みらいプロジェクト」（９年生総合的な学習の時間）の充実～
・分科会Ｃ：湯沢町ふれあい福祉健康フェスティバルわくわく作戦会議